こんにちは、福島高校です！

魅力ある福島高校の取り組み

串間市内で働く方や串間出身者を招き、職業現場の話を伺う『キャリア教育職業講話』が開催されました。今回も生徒から届けられたレポートをご紹介します。

福島高校2年
前門充徒（みつと）くん

幅広い進路実現が可能

1月27日、本校1・2年生を対象に『キャリア教育職業講話』が開催された。

この講演会は、働くことの意義や目的について考察し、その苦労ややりがいに気づき、進路選択や社会的・職業的自立の一助とすることを目的としている。本校では、進学から就職まで幅広い進路実現が可能であり、今回の取り組みは進路選択に大変役に立った。

平成23年に中央教育審議会より「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通し、キャリア発達を促す」ためのキャリア教育について答申が出された。これは、若者が社会の中でそれぞれの役割を果たし、自分らしい生き方を実現してほしいとの想いからと聞いている。

本校は宮崎県より3年間のキャリア教育推進校の指定を受けており、現在2年目。社会で活躍できる福高生の育成を目指して研究を重ねている。

働くことの意義を痛感

講師の先生方からは、「大変熱心に聴いてくれました。福島高校としての誇りを持ち、今後も活躍してほしいと思います。スキルもハートも持ち合わせたこの子たちに、串間の未来を託したいと思いました」（市民病院事務次長・吉岡久文先生）などの感想をいただき、生徒だけでなく、講師の方々にとっても特別な時間を過ごすことができたのではないかと思う。

実際に働いている方々から聞くお話は大変説得力があり、社会に出ないと分からない経験談や人生談を聞くことができた。企業が生き残るための戦略や、工夫なども聞くことができ、生の現場の話を聞けるのもこの企画の重要なポイントだと感じた。

現在、自分が持っている働くことに対しての考えや知識では通用しないということも実感させられた。今回のお話を参考にして、今後の進路選択に役立てていきたい。

【お願い】
職業講話をしてくださる先生方を募集中です。自薦他薦を問わず、ぜひ、地元福島高校の生徒に貴重なお話を聞かせてください。

●問い合わせ先＝
福島高校進路指導部
☎72－0049

講師のセブンプラザ串間店の甲斐正和社長

インタビュー

2年1組
野邊悠太くん

セブンプラザと玉味製菓のお2人の講演を聞きました。お2人からは「社会に出たらとても厳しい!」と言われました。玉味製菓の海江田さんは、寝る間も惜しんで新商品の開発をされ、憧れだけでは続かないということが伝わってきました。

セブンプラザの甲斐さんは企業理念である「注文や修理などの電話が来たら、お客さんの元に飛んでいく」くらいのスピード感を持ち経営されていることを知りました。わたしは将来、人に喜ばれる仕事をしたいと考えています。今回の講演を忘れず、厳しい社会に負けない人になり喜ばれる仕事がしたいです。ありがとうございました。

Health Knowledge

健康マメちしき

擦過傷の治し方

最近テレビでもときどき取り上げられるようになり、擦過傷（さっかしょう）に対する湿潤療法（しっじゅん）が周知されてきているようです。しかしながら、若いころに教わった「傷は唾（つば）をつけて乾かしておいたら、かさぶたができて良くなる」といった間違いを、後生大事に守っている方もまだまだいらっしゃるので、改めて湿潤療法についてお話したいと思います。

けがをしたら、病院に行って、消毒されて、ガーゼを当てられ、それを毎日繰り返して黒いかさぶたができたら、はいおしまい！　10年くらい前までそれがけがを治す一般的な常識でした。何回かけがをした人は経験で知っており、けがをした瞬間に、毎日の痛くてしみる消毒を思い出し、とても気分が落ち込んだことがあると思います。

「傷は乾燥させるもの」以前は常識であったこの概念は、現在主流の湿潤療法において180度考え方を異にします。そのメリットは痛くないこと、傷の治りが速いこと、傷の治りがきれいなことです。デメリットは今まで唾で直していれば治療費はただでしたが、後ほど方法のところで出てきますが、治療の材料が若干高くなるかもしれないということくらいじゃないでしょうか？

では、以前の治療との違いを具体的にお示ししますと、けがをして最初にされる消毒ですが、皆さんご存じと思いますが、これがけがをしたときより痛い、痛すぎます。そうですよね？ 病院に来たことを後悔してしまいます。しかも、チョロチョロと消毒を塗ったくらいで化膿なんて防げるものではないだけでなく、正常な組織までダメージを受けてしまい、傷の治りを遅くしてしまうのです。傷の化膿を防ぐには、十分に水（水道の流水で十分です）で洗浄することが大事です。

次に出血しているためガーゼを当てられます。やっと治療が終わってほっとしますが、あっという間に翌日になり、傷にべったり張り付いたガーゼをはがされるという、やや拷問に近い行いが行われます。「ゆっくりはがしてね」という御婦人も「一気にやっちゃって」という若武者も同じ痛みを味わいます。実は、血液と一緒に傷からは浸出液（みなさんが言う『汁』ですね）が出ており、これが傷を治すために非常に重要なのですが、血液と一緒にガーゼに吸い取られてしまいます。この浸出液（汁）を生かす治療こそが以前とまったく異なることなのです。今回は敬意を込めてお汁と呼んでみたいと思います。このお汁さま（言い過ぎ？）連日ガーゼに吸い取られて役立てないと腹を立てて黒くなり、かさぶたとなって傷に蓋をしてしまい、傷の治りを遅くしてしまいます。かさぶたができたらはいおしまい！ではなく、かさぶたを作らない治療をしなければなりません。

具体的な治療法は、水道水で洗浄した後に、創傷被覆材（そうしょうひふく）（各種いろいろあります）を傷に張るだけです。出血やお汁が多い場合は、その上にガーゼを張って漏れ出した分を吸い取らせます。もし病院に来るほどのけがではないと思ったら、サランラップで結構です。サランラップを張って、傷を乾かさないようにするのです。（ただ、創傷被覆材は適度にお汁を吸ってくれるのですが、ラップではお汁が出っぱなしになり、傷周囲の正常な皮膚がマケてかぶれてしまうことがあります）日中にけがをして、薬局が開いているときは、キズパワーパッドとかいう創傷被覆材もあったと思いますので、それでも十分対応可能です。

しかし、自己診断が心配なときは病院を受診してください。一度やり方を見てみると、後は自宅でできることが多いと思います。それでもアトピーなどで皮膚が過敏な人は治療法が合わないこともあるので、そのときはまた違った治療を行うことになります。

今まで、ペッと唾を吐かせては傷に塗り塗りさせていた親御さん、この治療を試してください。お母さんは子どもから感謝され、お父さんは失いかけた威厳を取り戻せること間違いなしです。

著：串間市民病院整形外科
医師 **深野木　快士**
Tsuyoshi Fukanogi